

県の「働き方改革基本方針」を読む もっと具体策を、そして「人と予算」を

埼玉県教育委員会は、9月24日に「埼玉県学校における働き方改革基本方針」(以下「基本方針」)を策定し、県立学校及び市町村教育委員会等に通知しました。市町村立学校については、各教育委員会を通じて管理職が責任を持って全教職員へ周知するとしています。この「基本方針」は、昨年度から実施してきた交渉回答を踏まえ、多忙化解消・負担軽減を進めようとする県教委としての具体的なとりくみの方向性を位置つけたものとなっています。越谷市教委は、この県の基本方針をもとに越谷版「働き方改革基本方針」を策定するとしています。ここでは、県版「基本方針」の概要と問題点についてふれたいと思います。

目的・目標

基本方針は、目的を「働き方改革を推進し、学校教育の質の維持向上を図る」とし、目標として文科省が超過勤務の上限とした「原則 ①月45時間以内 ②年360時間以内」を掲げました。

その上で、目標達成に向けて「4つの視点と取り組み」が述べられています。

■4つの視点

- ①教職員の健康を意識した働き方改革の推進
- ②妊娠教職員の勤務軽減の改善や年度当初の未配置、年度途中の病休や産・育休等の未補充をなくしていく。
- ③市町村独自の負担軽減検討委員会を設置し、実態に基づいたとりくみを進めていく。
- ④教職員の専門性を踏まえた総業務量の削減

夫・検討していく。

○市町村教委の年次研修は、内容を見直しして縮小したり、県の研修と兼ねることで回数を減らしたりしていく。

○年次研修における校内研修は、実施回数的大幅削減や研究授業の負担軽減を進めていく。

○市町村で実施している体育的行事は、子どもや教職員の健康・安全に配慮して大会を厳選し、大会に向けた練習期間や練習時間の見直しを進めていく。

○教育課程外の週休日等に実施している大会や記録会に、学校職員を要員とすることはよくないため、要員としないようにするとともに、大会や記録会を積極的に縮減していく。

③教職員の負担軽減のための条件整備

○授業準備や教材・教具の作成、採点等の事務処理の時間を確保するため、各学校で持ち時数を適切に設定していく。

○学校行事と教科等の指導と関連しているものは教科等の授業時数として扱

い、標準授業時数を大きく上回ることなく適正に年間授業計画を作成していく。

④保護者や地域の理解と連携の促進

○「基本方針」の公表やリーフレットを活用して、教職員の多忙化解消・負担軽減への理解促進を図っていく。

このようなとりくみを市町村教委に働きかけ、互いに連携しながら、県教委として多忙化解消・負担軽減を『抜本的かつ速やかな解決を凶らなければならぬ』最重要課題として実行していきま

がると予想はできるのですが、喫緊の課題は過労死を生みそうな状況を変えることなのです。

県の方針でいくと、改革をやったけど「学力は上がったか」とか「不登校はどうか」とかの検証になりかねないのです。教職員の危機が分かっているのか疑いたくなりま

二つ目に目標が努力目標であり、罰則がない点です。

まあ一応示しておいたが、後はだれもその目標に責任を負わない。頑張ったんだけどね。で、終わる危険性が大です。

中教審や文科省の改革案と何が違うのか分かりません。

次に4つの視点についてです。

①勤務時間、健康管理の責任はどこにあるのか明記していません。責任の所在を明確にしなければなりません。

負担軽減委員会の10%設置を挙げているのはいいのですが、越谷市教委はこの負担軽減委員会がすでにあると県に報告しています。大きな疑問です。

②大会、コンクールについては、小学校の体育行事はスポーツ庁でも触れています。体育行事について、もっとしっかりと弊害を述べて、縮減、廃

県方針の問題点

まず目的のブレと予算的な措置の問題です。

「基本方針」の目的ですが、本来この改革は教職員の働き方にあるはずなのに、そこが教育の質になってしまっています。働き方改革が進むと最終的には教育の質は上

第32回子どもの幸せを願う市民の集い 「今かかえている子どもの問題」

●「児童相談所の現場から」 90分 相談所職員

越谷児童相談所職員の方がお話をしてください。子どもたちへの虐待のニュースが絶えません。今回の講演では子ども達の身近で仕事をされている児童相談所の方からお話を聞きます。相談所はどんな仕組みなのか、相談者の取り組みや児童虐待の現状を話していただきます。

●「原発事故8年 事態は好転しているのか」 60分 木野龍逸氏

福島原発事故を追って真実を伝えるフリージャーナリスト。この集いには7回目の登場です。汚染水が満杯になり、「放水」が検討されています。木野さんに「復興」の陰で見えなくなっている問題をお話いただきます。

11月2日(土) 13:30~16:00
大沢地区センター・公民館



止を言うべきでしょう。(文化的行事と差があります。腰抜け案です)

③スクール・サポート・スタッフなどの予算化が明確ではありません。「支援」と言葉だけで誤魔化さないで、全校設置などを打ち出してほしいものです。(越谷ではたった3校なのに、いかにもやっているような議会答弁をしています)

④「保護者や地域の理解

と連携の推進」ということでは、県としてのPTA、関係団体への具体的な働きかけが大事です。越谷でも諸団体への申し入れは、すぐにできることです。

以上、目標の明確化と具体的な措置を教育行政には求めたいと思います。合わせて、職場の自主性を促し、励ます視点も忘れたいです。